

四日市東日本大震災支援の会の 2023 年度の活動方針と配慮すべきこと（修正）

2024 年 1 月 持ち回り総会で決定

<活動の背景>

四日市東日本大震災支援の会は、四日市大学の学生・教職員が中心となって 2011 年 4 月 1 日に立ち上げ、四日市看護医療大学・暁中学校高等学校などと協働で運営してきた。東北だけでなく、2011 年 9 月の水害被害を受けた三重県紀宝町、2015 年の関東・東北豪雨では栃木県鹿沼市と茨城県常総市、2016 年の熊本地震で被害を受けた熊本県西原村、2018 年 7 月に西日本を襲った豪雨では岡山県矢掛町、2019 年の令和元年台風 19 号で千曲川が決壊した長野市など、東北以外の災害においても支援活動をしてきた。2023 年末まで 80 回、延べ 2500 人ほどが活動してきた。

<基本的な活動方針>

三重の地域防災に貢献する活動については、2016 年 1 月 17 日に立ち上がった四日市市の機能別消防団の活動を充実させるよう、四日市市消防本部との連携を強化する。また、昨年度に続いて四日市大学で開催される地域防災を総合的に学ぶ講座に参画し、多くの高校生・大学生が防災士の資格を得て災害支援と地域防災に貢献できる人材になることを目指す。

また、国内で発生する大規模災害で被害を受けた地域に対する支援活動は、ボランティアの必要性や安全を考慮した上で派遣の判断をし、実施する。その場合、四日市市社協と連携して災害ボランティア活動を実施し、その後の生活支援については支援の会が中心となって展開していく。

<宮城県東松島市の現状認識と支援活動方針>

東松島市では 2017 年度に野蒜地区の集団移転が完了した。仮設住宅の住民は全員が退去し、仮設住宅は撤去が進んでいる。集団移転先ではコミュニティの形成が進み始めているが、災害公営住宅での独居老人の孤立が心配されている。現地の支援ニーズも大きく変化している。この変化の情報をキャッチし、それに合わせた活動計画を作り上げ、実施する。

<能登半島地震における活動の方針>

2024 年 1 月の能登半島地震を受け、1 月 13 日に先遣隊として輪島市まで調査にでかけた。今後は、中央共同募金会からの助成(第 2 回中長期助成を申請)、チーム四日市からの助成などを受け、現地の社会福祉協議会や NGO と連携して避難所・仮設住宅・災害公営住宅などの支援を中長期的に行うことを検討する。

<今後の活動に関する考え方（被災地での活動）>

支援の会は以下のことに気を配りながら計画をたてる。まず第 1 に、被災地のニーズに関する情報を細かく把握し、適切なタイミング・内容を検討して支援を行う。支援の会では、現地の負担にならない範囲で、できる限り被災地の行政や社協・NGO などと連携することを心掛けたい。第 2 には、自立を妨げないような配慮を行い、支援活動が現地経済と競合しないよう十分な注意をしていきたい。また、交流促進支援などでも、過度な活動によって被災者同士の自発的な日常交流が阻害される可能性があることに留意したい。

<参加費設定のあり方>

2023年での支援の会の現金残高は約130万円で、安定的な会の運営ができています。参加費は、中高生・スタッフ・一般の3段階で設定する。現地で5日、または3回以上の活動実績(宮城などの遠方1日活動は、1回あたり1.5日の計算)があるメンバーは、「スタッフ」として往復交通費に相当する部分を免除、宿泊・食事・入浴など個人に帰属する部分のみ負担する金額を設定する。スタッフは、準備・片付け・活動の指揮などを担うとともに、座席が満席になった場合はスタッフで協議し必要数の座席を確保するため必要人数の参加を辞退する。中高生参加費は、概ね必要な交通費を定員の70%で頭割りをしたものに、宿泊費や食費などの人数あたりで必要になる金額を足し合わせて設定する。一般参加に関しては、継続的な参加が想定できないため、中高生参加費とスタッフ参加費の差額の約2.5倍をスタッフ参加費に上乗せした金額とする。

<将来発生する新たな災害への対応>

大学生・高校生が中心になる活動であることを十分に認識し、大規模災害においては、安全の確保を第一に考え、現地の情報をできる限り収集し、派遣の必要性和安全性を検討する。その上で、できるだけ先遣隊の派遣を行って、本隊の活動場所・拠点などを確保し、その後に本隊の派遣を行う。近隣で発生した小規模な災害については、直ちに先遣隊の派遣を行い、安全を確保した上で活動を行う。このような新たな活動については、四日市市社会福祉協議会が予算を確保しており、移動にかかる費用はそこから支出が可能である。また、大規模災害の場合は、中央共同募金会が支援金を集め、ボランティアに助成金を出す仕組みが確立されているため、この資金の情報を入手し、可能であれば申請を行う。

<地域防災への貢献>

防災士を目指す講座を四日市大学で開催し、100名を目標に三重県内の中学生・高校生・大学生を中心に受講してもらう方針である。こうして広がるメンバーは、それぞれの在住・在学する地域において、防災イベントに主体的に参画し、災害時には自分の安全を確保したのちに、避難所や災害ボランティアセンターの運営に貢献していく。四日市市消防に設立された大学生による地域防災に機能を限定した機能別消防団は、その定員枠の増加を目指し、活動を活発化させる。

<活動を後輩たちに引き継ぐには>

支援の会は、大学生が中心となり、東北・熊本などでの災害支援活動で蓄積された経験や、被災地で得た知見を後輩たちに引き継ぎ、中高生や地域住民にも広め、災害に強いまちづくりに貢献していく。現状では、代表が中心となって活動方針・事業計画をつくっている。今後は、より大学生が主体的に活動に取り組み、会の運営をしていくことが、支援の会の持続可能性を高めることにつながる。

四日市東日本大震災支援の会 2023 年度の事業計画（修正）

2024 年 1 月 持ち回り役員会で決定

■2024 年 1 月までの活動（終了した活動）

第 79 回派遣 2023 年 8 月；三重県教委事業

三重県内の約 35 名の中高生を支援の会の大学生が東北に引率する「学校防災交流・ボランティア事業」に参画した。この事業は四日市大学が主催する「防災士養成研修」にもなっており、多くの中高生が防災士の資格を取得することを目指す。

第 80 回派遣 2023 年 12 月；みえ学生防災啓発サポーター（みえ防災・減災センター主催）

三重県内の高校生・大学生約 20 名を東北に引率する「みえ学生防災啓発サポーター事業」に参画した。この事業は四日市大学が主催する「防災士養成研修」にもなっており、多くの中高生が防災士の資格を取得することを目指す。

第 81 回派遣 2023 年 1 月 13～14 日；能登半島先遣隊

能登半島地震を受け、支援の会としての今後の活動を考えるための情報収集、現地活動拠点確保のため、2 日間にわたり石川県を訪問した。

■2024 年 1～3 月の事業計画

第 82 回派遣 2023 年 2 月；能登半島地震の被災地である輪島市での炊き出し

対口支援や社協ブロック派遣などで現地に派遣された三重県内の行政職員、社協職員からの情報をもとに、輪島市二勢の市営住宅と福祉施設において炊き出しを行う。

★派遣の事前準備と現地調査 2023 年 2 月の 2 日間

3 月 8 日に実施する足浴について、現地で活動する自主避難所の現地調査と調整を行う。また、今後の活動が想定される指定避難所、自主避難所などを可能な限り見守りを兼ねて見て回り、衛生環境などの生活環境を調査する。

第 83 回派遣 2023 年 3 月 7～8 日；輪島市門前町での足浴

輪島市門前町に拠点を置く NGO シャンティと連携し、自主避難所などの支援として、足浴を実施する。初めての避難所における足浴であるため、1 か所のための活動とする。なお、現地の調整役として、支援の会の役員をできるだけ門前町のシャンティの拠点「禅の里交流館」に滞在させ、今後の活動の調整や準備を行う。

第 84 回派遣 2023 年 3 月（日程未定）；輪島市門前町でのイベント「雪割草まつり」の手伝い

輪島市門前町の住民が毎年の恒例行事としている「雪割草まつり」を、二次避難の方たちもバスで搬送するなどし、盛大に開催を計画している。その交通整理や模擬店支援などの手伝いを行う。

第 85 回派遣 2023 年 3 月（日程未定）；輪島市門前町での炊き出し

輪島市門前町に拠点を置く NGO シャンティと連携し、自主避難所などに対し、炊き出しを実施する。足浴も検討する。経費節減のため、雪割草と炊き出しを連続する 2 日間で実施することも検討する。